

「全鍍連」 2023年 9月号 理事長のよこがお

山梨県鍍金工業組合 理事長 渡辺 順一 (株)ニステック 代表取締役社長)

「社会に出てから役立つ能力を、スポーツが育ててくれた。」



本年度より、佐野前理事長の後任として山梨県鍍金工業組合の理事長を仰せつかりました渡辺です。

大役を仰せつかり誠に恐縮ではありますが組合と全鍍連の発展に少しでもご協力できるよう 尽力いたす所存です。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

幼少期より勉学よりも体を動かすことが好きだった私ですが小学生の頃は、現在のようにTVゲームなどもあまりなく、学校が終わったら友人と一緒に公園で遊ぶ毎日をおくっていました。自分たちで工夫してルールを決め野球やサッカーをはじめ様々なスポーツ（遊び）を楽しんだ事を覚えています。

そんな私が中学生になって選んだ部活はサッカー部でした。その理由は小学生時代サッカークラブもなく、みんな横一線のスタートだから、また「サッカー部に入部する」と言っていた仲の良い友人がいた事もきっかけのひとつです。

そんな理由でのスタートでしたが、大学に入学するまでサッカー一筋に生きてきました。小さい頃から遊びの延長で「スポーツは楽しいもの」という思いを持っておりそれは今でも変わっていません。特に小学校から高校生の時までは、ただただ楽しく、無我夢中でスポーツと向き合ってきました。また中学や高校のサッカー部は強豪ではなかったこともあり、プレッシャーや緊張を感じる事はありませんでした。

意識が変わったのは大学時代に初めてインカレに参加した時の事です。全国とのレベルの差を感じました。ものすごく緊張した事は覚えています。その時から自分との向き合い方、考えながらスポーツすることの大切さを意識するようになり、以前にも増して日々の練習に取り組むようになりました。競争が激しい環境下に身をおけたことで自己成長できた。

また、高校時代は部員数も少なく2～3 チームつくるのがやっとという状況だったのですが大学では部員数が100名を超える大人数 そのため様々な練習を経験できました。3年時は副キャプテンを任せられ、人としても成長できたと思います。プレッシャーなどから調子を崩す事もありますが、焦ってしまうと余分な力が入り、悪循環に陥ってしまう事が多々あります。まずは自分自身の状態を受け入れる事がスタートだと思います。

私は「うわぁ 自分焦っているなぁ！！」と第三者が自分を見るようなイメージで心の中で自分自身に話しかけます。自分自身を客観視できるようにしてから原因と対策を考え少しずつトライ&エラーを繰り返す作業を実施します。大切な事は焦らない事で「このスランプを乗り越ければ、またひとつ成長できる」と成功体験を元に自分自身を信じ、ひとつずつ解決していきました。スポーツを通じて人生において役立つ能力を身につけるスポーツを通じてコミュニケーション能力を培うことがで

きたと思います。自分の考えと相手の考えを擦り合わせるには、相手が伝えたいことをしっかり理解すること、どうすれば自分の思いを相手に伝える事ができるのかを考えることが大切です。スポーツをしながらこういった能力を養うためのトレーニングもできていたのではと考えています。

私は冒頭の TV ゲームの話もありますが、インターネットの発展により大変利便性のあるデジタル化の社会に急激に発展してきています。しかし いつの時代もなによりも大切な事は「人」だと考えています。スポーツを通じなによりも競技（仕事）に対する姿勢や考え方を学び人間的にも成長できました。スポーツを通じこういったことを経験できたことは本当に良かったと思っています。